駿河半紙技術研究会
http://surugabanshi.com/
会報
会報　第11号
平成31年4月発行

夏休み親子手漉き和紙魅力発見プロジェクト開催

昨年の夏に開催された『夏休み親子手漉き和紙魅力発見プロジェクト』について、内藤恒雄会長より報告がありました。

駿河半紙技術研究会設立十年目を迎えた平成二九年三月四日、公益財団法人静岡県文化財団より第三十回『ふじのくに地域文化活動奨励賞』を受賞しました。これを記念し、次世代を担う小学生を対象に、手漉き和紙制作のワークショップを企画しました。

なお、今回の事業には、『公益財団法人みやしん地域振興協力基金』様の協賛も頂きました。

平成三十年八月一九日、内藤恒雄手すき和紙記念館に十二名の参加者を集め、実施されました。体験内容は、十四年連続で行っている地元の富士宮市立白糸小学校の卒業証書作りを参考にしました。

小学生に興味を持ってもらうため、説明はリーフレットを作成して分かりやすくし、紙漉きの実体験を重視しました。一人二種類の体験を実施しました。一回目は耳付き色紙三枚取りで練習し、二回目は耳付きはがき十四枚取りで行いました。あとの作業（プレス・紙貼り・天日乾燥）は当方が行い、完成後各々に郵送しました。

今回の反省をもとに、次回の開催も計画したいと思います。

また私事ではありますが、日本独自で世界に誇れる手仕事「手漉き和紙の啓蒙活動」として、独立四五周年を記念し、二年後の二一年秋に四度目のドイツ・ベルリン訪問を予定しております。

駿河半紙技術研究会
会長　内藤恒雄

新会員さん　いらっしゃい！

平成最後の年度に入会された四人の方々から、「入会の動機」及び「実技研修会　初参加の感想」を書いて頂きました。

小渕　真巳さん

八月に入会いたしました御殿場在住の小渕と申します。

私が書道を初めて七年、最近ようやく作品作りにおいて墨や筆、紙などの道具によって変わる印象を楽しめるようになりました。そして、書の道を深めるためにも道具についても、もっと知りたいとの思いで調べ始めると、和紙は書だけでなく紙衣や傘といった生活用品や、かるたや凧、千代紙などの遊びの素材や、祭りの道具にも使われていると知り、日本の文化にとって重要なものであったことを認識させられました。私が和紙や紙漉きに興味を持ったのはその時からです。

それから、近くに手漉き和紙の工房があると知り、どんなところで、どんな人が、どんな思いでやられているのだろうといろいろ考えると、いてもたってもいられず、そのまま内藤先生を訪ねていました。柚野で和紙を漉くようになるまでのことや柚野和紙の制作法のこだわり、駿河半紙技術研究会のことなど、突然の訪問にもかかわらず、一時間ほど話を聞かせていただきました。そして、駿河半紙の歴史や紙漉き技術を後世に継承していくという趣旨に共感し、その場で駿河半紙技術研究会へ入会を決めました。

また先日、研修会で三椏の紙漉きという貴重な体験をさせていただきました。初めてということで、簀桁に紙料を汲み込むときに簀桁と漉いている紙の間に紙料が入り込んでむらになりうまくいきませんでしたが、トロロアオイを混ぜることで、繊維がばらけて紙が漉けるようになることや、時間がたつとねりの効果がなくなって、むらになりやすくなることも体感できてよかったです。

これからも研修会などを通して、少しずつでも和紙制作の一つひとつの工程を学んでいきたいと思います。

平澤　美幸さん

この度、駿河半紙技術研究会に新たに入会させて頂きました、長野県諏訪郡原村（八ヶ岳の麓）在住、平澤美幸と申します。

私は十三～四年前に福井県の越前和紙の紙漉き屋に二年ほどお世話になっておりました。その後、和紙を建築の世界で活用できる仕事をしたいと京都に出ましたが、あっけなく挫折してしまい、その後は和紙とは関係のない仕事をしてきました。

それから十年以上が過ぎ、親の介護が一段落した今、自分の人生を考えた時に、ひとつ、自分の芯が欲しいと思いました。

それが和紙なんです。そして和紙の中でも三椏紙が漉きたいと強く思うようになりました。和紙工房を探している中、柚野手すき和紙工房・内藤さんに辿り着くことが出来ました。先生は真剣にお話をしてくださりました。助言と一緒に、駿河半紙技術研究会のお話を伺い感激し、即入会をお願いしました。

そして十一月の「みつまた」汲み込みに参加させてもらいました。十三年ぶりの紙漉きはできるのか、みつまたを漉くことができるのか…他の参加者の方には申し訳が無い位緊張した空気で漉かせてもらいました。久しぶりに見る漉き舟の中。生成り色のトロっとした艶やかな表情。唾を飲み込み、いざ。ぎこちなく、下手くそでしたが体が勝手に動いてくれました。記憶は無くなりますが、体は紙漉きを覚えていました。

今後、技術の研究、勉強会と習得の参加が楽しみでしょうがありません。中途半端な知識しかありませんが、宜しくお願い致します。

古屋（こや） 淳二（じゅんじ）さん

（虹霓社（コウゲイシャ））

二〇一七年五月に富士宮に移住し、編集・出版業を営んでいます。昨年から「編集教室」という印刷物を作るためのノウハウを学ぶ講座を開催していますが、今後は実際に紙で小冊子を作成するワークショップの実施を考えていたところ、知人から柚野で手漉き和紙を作ってらっしゃる職人さんがいると聞き、内藤恒雄さんを知りました。元々、紙が好きなこともあり、この土地の伝統である駿河半紙に大変興味を持ちました。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

矢野　貴志さん

（㈱プライドオブジャパン）

和紙とは名ばかりの機械漉きの紙が当たり前の昨今、本物の手漉き和紙は本当に少なくなってしまいました。日本の歴史と共に歩んできたこの伝統を将来に繋いでいく事は、現代に生きる者の責務と考えています。必ずや沢山いる筈の本物の和紙の価値を理解してくれる海外の方々に向けて情報を発信していく事を自身のライフワークと定め、海外展開の先駆者であり真っ当な紙作りを追及し続ける内藤さんに学ばせて頂こうと入会致しました。

楮蒸しと皮むきの研修

三月三日に行われた、楮蒸しと皮むきの研修の模様です。（参加者四名）

駿河半紙技術研究会主催

令和元年度 総会・記念講演会・懇親会のお知らせ

会期　令和元年５月 16 日（木）18：00～21：00

会場　〒418－000　富士宮市ひばりが丘 805　TEL0544－28－1126
富嶽温泉「花の湯」http://www.tokinosumika.com/hananoyu/

会費　１名　6,000 円（懇親会・入湯税・消費税込み）

内容　18：00～18：10　総会
18：10～19：00　記念講演会・仮演題「故河村伝兵衛氏の業績」
講師 藤枝市「青島酒造株式会社」
専務　青島 孝（あおしま　たかし）様
19：00～21：00　懇親会

講師略歴

昭和 39 年、藤枝市生まれ。早稲田大学卒。
証券系投資顧問会社にてファンドマネージャーとして勤務後、渡米。
平成８年帰国、杜氏見習として青島酒造株式会社入社。
平成 13 年、杜氏代理。平成 16 年、杜氏就任、現在に至る。
同年、師匠の河村傳兵衛氏により杜氏名“傳三郎”を授かる。

申し込み締切日　４月 20 日（土）

申し込み方法　前金制　郵便振替ご利用　00830－7－137
柚野手すき和紙工房・内藤恒雄

お泊りご希望の方は、「花の湯」まで直接ご予約をお願い致します。
予約時に「駿河半紙技術研究会・総会」に出席とお伝えください。
シングル１名 6,500 円（朝食付き）チェックイン 16：00～

★★ 2019 年度の年会費 1,000 円のご入金も忘れずにお願い致します ★★

振込先：郵便振替ご利用　00830－7－137
柚野手すき和紙工房・内藤恒雄
〒419-0301　富士宮市上柚野 907-1　TEL&FAX　0544-66-0738